Surviving Siberia: The Story of Lithuanians in Exile

リトアニア人たちの流浪物語

20世紀半ば、リトアニアとその国民は試練と喪失の時代を経験しました。リトアニアは1940年にソ連に武力併合され、翌1941年から1944年までナチス・ドイツによる占領に苦しみます。その後再びソ連に支配され、およそ50年にわたる弾圧を受けました。反ソ的とみなされた約28万人のリトアニア人が、北極圏やカザフスタン、シベリアなどの流刑地へと送られ、過酷な労働を強いられました。彼らは長期間にわたり抑留され、後に故郷へ生還できた一部の人々もソ連秘密警察の監視下に置かれます。自らの経験を家族間で話すことすらできず、抑圧されたまま生活しなければなりませんでした。本展では、リトアニア国立博物館の協力のもと、ソ連政府が占領下のリトアニアの住民に対して行った政治弾圧と、強制移送された人々を待ち受けていた過酷な環境や労働、人としての尊厳や民族的アイデンティティを失うことなく生きようとする彼らの不断の努力、そして祖国への帰還の望みを紹介します。彼らの生きた証は、たとえ過酷な状況下であっても、ひとりひとりの名前が記憶され、その命が尊ばれるべき存在であることを、現在を生きる私たちに訴えかけています。

1940年代、東ヨーロッパにいたユダヤ人たちは、ナチス・ドイツやソ連による迫害を逃れるため、当時中立国であったリトアニアに逃れ、カウナスの日本領事館で杉原千畝領事代理が発給した“命のビザ”を得て、シベリア鉄道に乗って大陸を横断し、さらに船で日本海を渡って敦賀港に上陸しました。こうした歴史的なつながりから、人道の港 敦賀ムゼウムでは現在もリトアニア国立博物館をはじめとした関係機関と交流を続けています。

本展では、難民への日本通過ビザ発給の舞台となったリトアニアにおいて、同時代の多くの人々にとっても「戦争」は苦しみの根源であったという事実に気付かされます。

National Museum of Lithuania 170

EMBASSY OF THE REPUBLIC OF LITHUANIA TO JAPAN

帰還者たちの記憶ミュージアム
MEMORIAL MUSEUM FOR SOLDIERS, DETAINEES IN SIBERIA, AND POSTWAR REPATRIATES

Lithuanian Culture Institute

『シベリアからの生還 リトアニア人たちの流浪物語』展は、リトアニアの20世紀の悲劇の苦しい1ページを紹介するだけではなく、日本人のシベリア抑留による悲劇との共通点を感じさせます。1940年代、遠いシベリアで起きたリトアニア人の追放者と日本人の捕虜の出会いが両国の友好の象徴の一つとなります。

今回、本展示が「人道の港」と呼ばれる敦賀で開催されること、大変嬉しく存じます。杉原千畝氏の「命のビザ」により救われたユダヤ人が辿り着いた敦賀は、リトアニアにとっても重要な場所です。この展示を通じて、辛い過去を思い出すことで、世の中が少しでも平和に近づくことを心から祈念いたします。

オーレリウス・ジーカス　駐日リトアニア共和国特命全権大使

リトアニアと敦賀の子どもたちが描いた大きな友情の架け橋の絵を展示。

2023年に敦賀とリトアニアの子どもたちが半分ずつ描き完成させた大きな橋の絵が、”命のビザ”が発給されたリトアニアの杉原記念館（旧日本領事館）に展示された後、日本に帰ってきましたので、会期中展示しています。

共催:NPO法人 GOFAR BANK

会期中、TSURUGA BOOKS&COMMONS『ちえなみき』で関連書籍を紹介しています。

人道の港
敦賀ムゼウム
Port of Humanity TSURUGA MUSEUM

914-0072　福井県敦賀市金ケ崎町23-1　Tel.0770-37-1035
◎開館時間 9:00～17:00（入館は閉館30分前まで）
◎休館日　水曜日（祝日の場合は翌日）
◎入館料　大人：500円　小学生以下：300円（20名以上の団体は2割引）
障がい者及び介護者1名・4歳未満 無料